

## 30年1月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 1月4日～ 30年1月15日

## 2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
1月分の回答企業数は7社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) 荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/1月	2月	3月
入荷動向	国産材製材品	△ 35.7	△ 35.7	△ 14.3
	外材製材品	△ 21.4	△ 28.6	△ 21.4
	その他	△ 10.0	△ 10.0	0.0
販売動向	国産材製材品	7.1	△ 7.1	7.1
	外材製材品	0.0	△ 21.4	△ 14.3
	その他	0.0	0.0	10.0
在庫動向	国産材製材品	△ 21.4	△ 14.3	0.0
	外材製材品	△ 21.4	△ 28.6	△ 21.4
	その他	0.0	10.0	10.0

・国産材製材品、外材製材品の入荷動向は3カ月連続減少。その他は1月、2月の減少から3月は横ばいに。

・国産材製材品の販売動向は1月の増加から2月は減少、3月は再び増加に。外材製材品は1月の横ばいから2月、3月は減少に。その他は3カ月連続横ばい推移。

・国産材製材品の在庫動向は1月、2月の減少から3月は横ばいに。外材製材品は3カ月連続減少。その他は1月の横ばいから2月、3月は増加に。

## (2) 価格動向 Weight. D. I.

品目		30/1月	2月	3月
スギ	柱角 KD10.5×3	35.7	21.4	14.3
	柱角 KD12×3	21.4	7.1	7.1
	通し柱 12×6	10.0	0.0	0.0
	桁角	7.1	0.0	0.0
	母屋角	14.3	0.0	0.0
	タルキ	14.3	0.0	0.0
	間柱	7.1	7.1	7.1
	加工板	0.0	0.0	0.0
	ヌキ	7.1	0.0	0.0
	平割	14.3	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	35.7	28.6	14.3
	柱角 KD12×3	35.7	28.6	14.3
	土台角 10.5×4	35.7	35.7	21.4
	土台角 12×4	35.7	28.6	14.3
	通し柱 12×6	8.3	0.0	0.0
カラマツ土台角10.5×4	0.0	0.0	0.0	
米マツ平角	50.0	33.3	16.7	
米マツ割物	41.7	33.3	16.7	
北洋エゾマツタルキ	0.0	0.0	0.0	
北洋アカマツタルキ	10.0	20.0	10.0	

・スギ柱角KD10.5×3は強含み。その他の品目は保合。

・ヒノキは柱角KD10.5×3、KD12×3、台角10.5×4、12×4とも入荷不足のため強含み。通し柱は保合。

・カラマツ土台角10.5×4は3カ月連続横ばい推移。

・米マツ平角、割物とも値上がり基調で強含み。

・北洋エゾマツ、アカマツタルキは保合。

モニターからのコメント

(荷動き)

- ・国産材は入荷順調。外材はアカマツ栈木入荷なし。W/Wは4m少ない。アカマツ30×40は良いものは未入荷(1月末～3月)。全体的にはおおむね在庫はできている。販売動向は日数少なく売り上げが少ないのと、記念市には売上増える。在庫は少ないものもあるが全体的に順調(関東)。
- ・国産材の柱・土台、外材製品の米松中心に入荷状況は鈍い。1月は売り出しがあり販売量が多い。仕入が内地材、外材ともによくないため売り出し等のイベントが入ると在庫は減少する。平常時の売れ行きが良くないため、現状では困ってはいない(中部)。
- ・入荷状況に変わりなし。販売状況も大きく変わりなし(中部)。
- ・ヒノキ土台角、スギ柱角が不足している。外材はポプラLVLが不足している(近畿)。
- ・入荷、販売動向とも先月と変わらず。一部価格上昇の傾向あり。その原因は柱、間柱材の入荷量減少による(九州)。

(価格動向)

- ・スギ柱角(KD10.5cm) 60,000円/m<sup>3</sup>、(KD12.0cm) 60,000円/m<sup>3</sup>、スギ桁角(東北材・グリーンラフ) 40,000円/m<sup>3</sup>、母屋角(東北材)(二等) 30,000円/m<sup>3</sup>、スギタルキ(東北材) 45,000円/m<sup>3</sup>、スギ間柱(特-KD) 60,000円/m<sup>3</sup>、スギ加工板(グリーン材) 束2,800円、(KD) 束4,800円、スギヌキ(東北) 40,000円/束、秋田材50,000円/束 スギ平割(プレーナー) 45,000円/m<sup>3</sup>、同(ラフ) 43,000/m<sup>3</sup>、ヒノキ柱角(KD)・土台角10.5cm、12.5cm 80,000円/m<sup>3</sup>、米マツ平角 KD 68,000→70,000円/m<sup>3</sup>、米マツ割物AD 70,000→72,000円/m<sup>3</sup>、北洋アカマツタルキ(アSEMBル単価)(S) 70,000円/m<sup>3</sup>、(P) 60,000円/m<sup>3</sup>、(バンドル単価)(S) 67,000円/m<sup>3</sup>、(P) 57,000円/m<sup>3</sup>(関東)。
- ・スギ柱・土台は値上り。造作材は現状維持。ヒノキ構造材は九州、四国材中心に値が上がっている。米マツは大手が値上げしているため、価格は値上げ基調。北洋エゾマツ、アカマツタルキは品質が落ちてきているのに製品価格は高止まりのまま(中部)。
- ・スギ柱、間柱は若干値上唱えもなかなか通らず。ヒノキは相変わらず10.5角の柱、土台は産地は強唱え。販売単価上げは難しく徐々に上げている状態(中部)。